

# e-dream-s 通信

No.48 発行：2004年9月12日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

## 目次

1. ジグソーパズルとしてのアジアツアー 辻莊一 p.2
2. サービスの精神：極東ロシアの期待 井川好二 p.4
3. 「貢献」って？ ; 会員総会を終えて思うこと 中川房代 p.11
4. ARE YOU AN E-DREAM-ER???!! Lance Burrows p.12
5. 「戦車と大砲とウオッカ」 初めてのロシア 岩本康子 p.13
6. 15年ぶりの韓国 安田 悠 p.14
7. <報告> 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ 第5回定時会員総会 中川房代 p.16
8. 監事辞任の挨拶 丸野 有利子 p.18
9. 総会&パーティへ参加しての感想 阿部 ちひろ p.18
10. お知らせ p.19



2004年8月28日に行われた第5回定時会員総会において挨拶する辻代表理事

# ジグソーパズルとしてのアジアツアー

e-dream-s 代表理事 辻 荘一

アジアツアーの快樂は、脳内世界地図を描く快樂だ。元来、出不精で家にいて幸せな私が、毎回アジアツアーに出かけるのは、旨いものを食べたいからでも、珍しいものを見たいからでもなく、脳内世界地図を描くためである。

そしてアジアツアーごとに少しクリアになった脳内世界地図をもつ私はツアー以前の私とは少し違っているはずだ。しかもこの脳内世界地図はジグソーパズルに似ている。

1987年に韓国から始まったアジアツアーの初期の頃は、ツアー以前に比べて少し知識と経験が増えたという程度の認識だったが、1996年のアメリカツアーの頃だろうか、自分の頭の中に世界地図のジグソーパズルがあって、海外研修をするたびに少しずつピースを入れる様に、世界像がはっきりして行くというイメージができ、以来私はジグソーパズルのイメージでアジアツアーをとらえている。

ちなみに調べてみると、ジグソーパズルは1760年頃、ロンドンの彫刻師及び地図製作者であるジョン・スピルズベリー(John Spilsbury)によって考案されたもので、最初は1枚の地図を板に貼り、国境の境界線に添ってカットすることで組み合わせ細工だったということで、世界地図のジグソーパズルというアナロジーもまんざらの外れでもないわけである。

ジグソーパズルは完成に近づくと、ピース同士の関係が明確になってきて、ピースを入れる作業が簡単に素早くできるようになる。私の脳内世界地図も、ジグソーパズルと同様、アジアツアーの回数を重ねるごとにそれまでの経験が相互に作用するようになり、世界の全体像が加速度的に明確になったように感じられた。

ジグソーパズルが完成に近づくと嬉しい反面、考えながらピースを入れるというゲームとしては簡単すぎてつまらなくなってくる。同様にアジアツアーも刺激という面では、徐々に平板になってきているとも言える。

16回目になる今回のロシアツアーに出発する時も、当然完成に近づいた脳内世界地図にさらにピースを追加するという意識で出かけた。もちろん新しい刺激に満ちた体験もあるだろうけれど、それも今までのアジアツアーの枠組みの中に入る経験だろうと言う意識である。しかし今回のロシアツアーでは今までにないことが起こった。ピースが増えただけでなく今まで台のなかったところに台が出来たのである。

今まではジグソーパズルのピースのことは考えてきたがピースを置く台のことは考えたことがなかった。そして考えてみれば私の台は、世界地図というからには全世界をカバーしていなければならないはずなのに、北半球の北海道から沖縄ぐらまでの幅で東西に広がっているだけだったのである。つまりロシアの部分には台がなかったのである。そしてロシアツアー後は必然的にそこに台が出来てしまったのである。

アジアツアーもそろそろ刺激が少なくなった等と不遜な考えを抱いていた私にとって、これは相当なシ

ヨックであり、同時に嬉しい発見だった。完成間近と思われた脳内世界地図が根本から書き直されてしまったのである。ロシアにもジグソーパズルの台が出来たということは、他にも台が出来るということであり、脳内世界地図は完成にはほど遠かったのである。

全く、人生を舐めてはいけない。すでに16回を数えたアジアツアーは、マンネリにはほど遠く、行くべき場所はまだまだ無数にあり、そこには予期せぬ驚きが待っているのである。



e-dream-s.come.true

## サービスの精神：極東ロシアの期待

e-dream-s 顧問 井川 好二

待つほどもなく運ばれてきた冷たいビールを、これも程よく冷えている小振りのグラスへ。先付けは、唐津<sup>1</sup>の小皿に「オクラ<sup>2</sup>と長芋<sup>3</sup>の梅肉和え」。夏バテによく効くと云う能書きが嬉しい旬の野菜が、唐津のざっくりとした砂目<sup>4</sup>になじんで、色目も心地よい。

西陣織の袋帯が、芥子色の伊那紬<sup>5</sup>にアクセントの女将が、「センス、ほんまに、お久しぶ

---

<sup>1</sup> からつ やき【唐津焼】唐津市を中心に産する焼き物の総称。文禄・慶長の役後、朝鮮半島からの渡来陶工によって素朴な味わいの日用雑器が焼かれたのが、本格的な生産の始まりとされる。遺品には茶器に用いたものも多い。[大辞泉 提供：JapanKnowledge]

<http://www.karatsu.or.jp/product.html> 参照。

<sup>2</sup> オクラ【okra】アオイ科の多年草。日本では一年草。高さ〇・五～二メートル。葉は三～五裂し、長い柄をもち互生。夏から秋、黄色い五弁花を開く。実は角状で、若いものを食用にする。アフリカ北東部の原産。アメリカねり。[大辞泉 提供：JapanKnowledge]

<sup>3</sup> なが いも【長芋・長薯】ヤマノイモ科の蔓性(つるせい)の多年草。塊根は長い棒状になるほか、形は品種によりさまざま。葉は矢じり形で先がとがり、葉のわきにむかごをつける。雌雄異株。夏に白い小花が穂状に咲く。中国の原産。芋をとろろ汁などにし食する。漢方では薯蕷(しよよ)・山薬(さんやく)と称し薬用にする。《季 秋》「掘って入日に土の香寒し/蝶衣」[大辞泉 提供：JapanKnowledge]

<sup>4</sup> 唐津ほど変化に富んだ土味をもつやきものはない。一般的に唐津の土は「砂目」だと言われている。これは、砂が混合している意味ではなく生地が荒いところからきている。

<http://www004.upp.so-net.ne.jp/my-favorite/tokimeki-daigaku/karatuyaki.html> より。

<sup>5</sup> 【伊那紬】伊那節の一節にもあるように古くから養蚕が盛んであった伊那谷。必然的

り」

秋が、もう始まっているのは、白木のカウンターの備前<sup>6</sup>に投げ入れの、薄紅色の秋海棠<sup>7</sup>でわかる。

「あれ、秋海棠？」

「へえ、なんや寂しい花ですけど、秋らしいて、好きですねん<sup>8</sup>」

「そやな、もう9月」

「ちょうど、今頃、寂光院<sup>9</sup>さんののが、綺麗おす」

もう何年も前、台風一過の大原寂光院を、訪れたことがある。そう云えば、池の面に、頼りなげに揺れる秋海棠が映っていた、ように思う。

「それで、センセ、ロシアは、どないでした？」

「う～ん、どないと聞かれても・・・」

「やっぱり、お気に召しませんでした？」

「いや、そう云うことやなしに、一言では云い難いねんけど・・・」

---

に紬は生産され引き継がれていった。しかし、大正から昭和の初期にかけて100数10社の製糸工場が天竜川の豊富な水で水車を回し生糸を生産しはじめた。今でもところどころに見られる白壁の大きな繭蔵にその名残りを留めている。以後絹織物が中心となり、力織機がハバをきかせるとともに、紬の灯が消えかけた。近くに製糸工場、山野に草木、里人の熱い思いに加えて研究と手織使用により、伊那紬は再び息吹はじめた。昭和27年のことだ。この地の紬に使用される糸は、吟味された玉糸、真綿からの手紡糸、天蚕糸などだが、なんととっても特異な撚糸機を揃え、糸繰り、合糸、撚糸（下撚り）そして2本に撚ったものをさらに諸に撚ったりミコに撚る、しかもゆっくりと。この気の遠くなるような工程こそがころりとしたやわらかさをかもしだすのであろう。さらに、山野に自生する小梨、りんご、白樺など、その豊富な草木の樹皮や幹材から染液を煎じ出し、様々な媒染材を使って多彩な色を引き出している。<http://mustang.c-mash.co.jp/sinsyutumugi3.htm>より。

<sup>6</sup> びぜん やき【備前焼】備前から産する陶器。多く無釉(むゆう)で、火襷(ひだすき)などを特色とする。古代の須恵器が起源とされ、桃山時代から江戸中期に隆盛。桃山以前のものを古備前、江戸以降のものを伊部(いんべ)焼ともいう。[大辞泉 提供：JapanKnowledge]

<sup>7</sup> しゅう かいどう【秋海棠】シュウカイドウ科の多年草。ベゴニアの仲間、高さ約六〇センチ。秋、紅色の花が下垂して咲く。葉の付け根に小さいむかごをつけて増える。中国の原産で、庭園に植えられる。《季秋》「臥して見る—の木末かなノ子規」[大辞泉 提供：JapanKnowledge]

<sup>8</sup> この辺り、何故か、金谷武洋(2002)「日本語の主語はいらない」東京：講談社、参照。

<sup>9</sup> じゃっこう いん【寂光院】京都市左京区大原にある天台宗の尼寺。山号は清香山。創建は聖徳太子というが、空海説や良忍説もある。壇ノ浦での平家滅亡後、安徳天皇の母建礼門院が入寺、高倉・安徳両天皇の冥福を祈った所。

8月のはじめに訪れた、極東ロシアの余韻が、まだ続いている。あるいは、一ヵ月たって、印象が一層はっきりしたと云った方が良いのかも知れない。ロシア太平洋艦隊の拠点ウラジオストック<sup>10</sup>と、旧樺太の首府ユジノサハリンスク<sup>11</sup>、つまり、ロシアのプリモルスキー<sup>12</sup>（沿海州）とサハリン州<sup>13</sup>で、これらを一括して、「極東ロシア」と呼ぶ。1週間ばかりの短い旅であったが、その極東ロシアのインパクトは強い。

「今度の旅行で、よう分かったことは、極東ロシアは、要するに、『発展途上国<sup>14</sup>』や云うことや」

「発展途上国？ けど、プーチン<sup>15</sup>はんのロシアでしょ、センセ？」

---

<sup>10</sup> ウラジオストック (Vladivostok) ロシア南東部,プリモルスキー(沿海州)地方南端,ピョートル大帝湾に臨む港湾都市。人口 65 万。1860 年建設。1872 年海軍基地を設置。東清(とうしん)鉄道・シベリア鉄道でヨーロッパと結ばれてから,商業都市・貿易港として発展。漁業・水産加工業がさかん。「東方の支配」の意。【新世紀ビジュアル】

<sup>11</sup> ユジノサハリンスク (Yuzhno-Sakhalinsk) 南樺太(みなみからふと)南部,鈴谷川(すずやがわ,ススナイスキー川)沿岸にある豊原(とよはら)のロシア語名。人口 16 万。ロシアのサハリン州の州都で,機械・車両・食品などの工場が立地。日本統治時代の樺太庁博物館(現,ユジノサハリンスク郷土資料館)がある。【新世紀ビジュアル】

<sup>12</sup> プリモルスキー (Primorskiy)ロシア南東部,ほぼ北緯 47°(シホテアリニ山脈中は 48°30')以南の地方。面積 16.6 万km<sup>2</sup>。中心都市ウラジオストック。北はハバロフスク地方,西は中国・北朝鮮に接し,東・南は日本海に臨む。旧名マリタイム地方(Maritime krai)。日本語名は沿海州(えんかいしゅう)。【新世紀ビジュアル】

<sup>13</sup> サハリン (Sakhalin) 樺太(からふと)のロシア語名。ロシア南東部,樺太と千島(ちしま)列島からなる州。面積 8.7 万km<sup>2</sup>。州都ユジノサハリンスク。日本の北方領土を含めている。【新世紀ビジュアル】

<sup>14</sup> はってんとじょう こく〔ハツテント ज्याウ 〕【発展途上国】《developing country》発展・開発の途上にあつて、現在は一人当たりの実質所得が低く、産業構造では一次産品の比重が高い国。開発途上国。[大辞泉 提供: JapanKnowledge]

【発展途上国】共産国諸国、産油国などを除く、国民一人あたりの実質所得が低く、工業化が遅れている国のことを指します。第2次世界大戦後、欧米の植民地であった国が独立をはじめたころに、自らを「発展途上国」と呼び、それが国連用語として定着するようになりました。世界銀行は、1997年の一人あたりのGNPが3126ドル以上9655ドル以下を中所得国、785ドル以上3125ドル以下を低中所得国、785ドル未満の国を低所得国としています。低所得国は、産業構造が農林水産業などの第1次産業に依存している国が多く、人口の増加による貧困や、教育の遅れ、インフラの未整備など多くの構造的問題と直面しています。http://www.nikkei4946.com/today/basic/27.html より。

<sup>15</sup> ウラジーミル・ウラジーミロヴィチ・プーチン(

(Vladimir Vladimirovich Putin) 1952年10月7日 - )は、ロシアの大統領(在任1999年 - )。レニングラード(現在のサンクトペテルブルク)に生まれ、ソビエト連邦時代はKGBに勤務し、東ドイツなどで諜報活動に従事したとされる。ソ連崩壊後レニングラード市政に携わって注目を集め、1996年に中央政界に転じた後はKGBの後身である連邦保安庁(SDF)の長官を務めた。1999年に首相に任命されると第二次チェチェン紛争の制圧に辣腕をふるって国民の支持を集め、同年健康理由で引退を宣言したボリス・エリツィン大統領によって大統領代行に指名、2000年の大統領選挙でも圧倒的な人気を集

「そや。信じられへんけど、旧ソ連<sup>16</sup>の、プーチンはんのロシアの、極東ってところは、発展途上国なんや」

「へ～え」

「モスクワの文明から、あまりにも遠い。光もあたってない」

人口は1億4千万と日本とさほどかわらないが、ロシア連邦の国土は広大で、日本の45倍、米国の2倍近くもある。プーチン大統領のいる首都モスクワから、最も離れた地域である極東ロシアが、発展途上国であったとしても不思議はない。

16世紀以降、東方に広大すぎる領土、つまりシベリア、を獲得したロシアは、そのために、国家の存立までが影響を受けることになったと、司馬遼太郎は云う。「シベリアの獲得によって力学構造が変わった<sup>17</sup>」と云う。

このことは、巨人の体にたとえるべきかもしれない。この巨人は左腕が巨大になった。シベリアは巨大な左腕にあたり、ウラル山脈がその左腕のつけ根をなす左肩にあたる。欧露というみじかい右腕をまわして長大なシベリアの痒みを掻こうとする場合、右腕の寸法が足りず、たえずむりな体形をとったり、不自然な運動をせざるをえなくなった。（「ロシアについて」pp. 93-94）

一般に、発展途上国の経済における大きな特徴の一つは、第一次産業<sup>18</sup>への過度の依存である。中国もベトナムも、農業を中心とする第一次産業への依存構造から、外資を導入して工業化を推進し、発展途上国からの急速な脱皮を目指している。

海軍基地の町、軍需産業の町として栄えたウラジオストックは、冷戦体制の終焉、ソビエト連邦の崩壊以降、すっかり寂れて、斜陽の街になってしまった。長大な「左腕」の先っ

---

めて過半数の得票を受け当選、正式に大統領となった。柔道をたしなみ、レニングラード市大会で優勝したこともある有段者である。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A6%E3%83%A9%E3%82%B8%E3%83%BC%E3%83%9F%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%83%97%E3%83%BC%E3%83%81%E3%83%B3> より。

<sup>16</sup> ソビエトれんぼう〔(Soviet)連邦〕1922～1991年にロシアを中心に結成されていた連邦国家。ソビエト社会主義共和国連邦(Union of Soviet Socialist Republics)の略称。ソ連。USSR。【新世紀ビジュアル】

<sup>17</sup> 司馬遼太郎(1989/2002)「ロシアについて：北方の原形」東京：文春文庫。(p. 93)

<sup>18</sup> だいいちじ さんぎょう〔サンゲフ〕【第一次産業】英国の経済学者コーリン＝クラークによる産業分類の一。農業・牧畜業・水産業・林業・狩猟業などの産業をいう。[大辞泉 提供：JapanKnowledge]

だいにじ さんぎょう〔サンゲフ〕【第二次産業】英国の経済学者コーリン＝クラークによる産業分類の一。製造業・鉱業・建設業・ガス電気事業などが含まれる。ただし、鉱業を第一次産業、建設・ガス・電気を第三次産業へ分類する場合もある。[大辞泉 提供：JapanKnowledge]

だいさんじ さんぎょう〔サンゲフ〕【第三次産業】英国の経済学者コーリン＝クラークによる産業分類の一。商業・運輸通信業・金融業・公務、その他のサービス業が含まれる。[大辞泉 提供：JapanKnowledge]

ちよにまでは、なかなかモスクワの文明が届きにくくなって、極東ロシアはその恩恵に浴することが稀になった。

現在のウラジオストック経済は、漁業と木材を中心に展開している。そして、あわよくば、観光で一儲けできればと思っているに違いない。一方、サハリンの好景気は、原油や天然ガスの採掘と産出によってもたらされた「ゴールドラッシュ<sup>19</sup>」である。後は、伝統的に漁業があるばかりで、穫ったカニやサケなどの高級魚介類は、日本へ売られる。それやこれやを考えあわせれば、現在の極東ロシア経済の、発展途上国ぶりがはっきりするし、第一次産業の比重の大きさに注目せざるを得ない。

「お酒にしますか？」

「そやなあ」

「山形の知り合いから、『十四代<sup>20</sup>』の『龍のおとし子<sup>21</sup>』を送ってもらいました」

「ええ、そら珍しい！ 幻の銘酒」

「戻り鰹<sup>22</sup>のたたきに、よう合います」

「そりゃ、ごちそうさま！」

日本からの中古車の輸入およびその販売が、ウラジオストックの大きな収入源となっているのは事実である。しかし、車が商品だからと云っても、それらは日本から輸入された日本製の中古車で、極東ロシアで生産された工業製品と云うわけではない。ウラジオストックは、単に、車と云う現代社会の必需品の、取り引き場所になっているに過ぎない。つまり、開拓地、あるいは“trading post<sup>23</sup>”における、「馬市<sup>24</sup>」のような性格のものであろう。

「馬市」などと云うと、なにやら、荒々しく、アメリカ西部開拓時代の銃声や、本邦では、

---

<sup>19</sup> ゴールドラッシュ (gold rush) 新発見の金鉱地へ多くの人々が殺到すること。カリフォルニアの金鉱発見(1848)で生まれた用語。【新世紀ビジュアル】

<sup>20</sup> 十四代(じゅうよんだい)蔵元: 高木酒造(山形県)〒995-0208 山形県村山市大字富並 1826 TEL 0237-57-2131 / FAX 0237-57-2133

<http://www.sakeno.com/meigara.php?meigaraid=223> より。

<sup>21</sup> 高木酒造の先代が作ったお米(龍の落とし子)で、お孫さんの誕生を祝って造られたお酒で、十五代頭統氏が日本航空ファーストクラス専用醸す十四代の新作です。日本航空機内のみで飲むことの出来る貴重なお酒です。

<http://www.rakuten.co.jp/niigata/162143/179457/> より。

<sup>22</sup> 鰹は南洋から、はるばる日本に向けて上がってきて、九州～四国～関東から金華山沖はたまた、北海道近くまで北上し迂回して南に戻ってきます。鰹は北上するにしたがって脂がのり「もどり鰹」は脂がのって、刺身に最高って！秋鰹を絶賛する方もいますよ。

[http://www.kcb-net.ne.jp/t-kai/katuo\\_untiku.htm](http://www.kcb-net.ne.jp/t-kai/katuo_untiku.htm) より。

<sup>23</sup> [trading post] a station of a trader or trading company established in a sparsely settled region where trade in products of local origin (as furs) is carried on [Merriam-Webster's Collegiate Dictionary]

<sup>24</sup> うまいち【馬市】ウマを売り買いする市。horse fair 【新世紀ビジュアル】

鎌倉時代の初めに活躍した奥州の「金売り吉次<sup>25</sup>」の声が、聞こえてきそうなのだが・・・むろん、その「中古車市場」と云う言葉から、その機械工業産品としての特色より、発展途上国的、つまり、物々交換とまでは云わないが、中古車を家畜、あるいは狩猟の獲物のように取り引きする様子を、その特徴として印象づけたいがために、こう云う描写を敢えてしているのである。むろん、現実のウラジオストックもユジノサハリンスクも、ハリウッド西部劇や義経記<sup>26</sup>の世界のように、埃っぽくも、物騒でもない。

むしろ、治安は良い方だし、人情にも厚いと思われる。手付かずの美しい自然は、有り余っている。足りないものは、資本主義社会として再生するための自覚と、観光立国への戦略であろう。さほど元手も要らず、現金商売のできる観光こそ、発展途上国の多くが目指す立国プランの一つである。

ユジノサハリンスク在住の日本人ビジネスマンから聞いた話だが、彼が以前マネージャーをしていた日露合弁のホテルで、就任してまずやったことは、ロシア人従業員がホテルのフロントで、宿泊客に部屋の鍵を、投げ渡すのを禁止したこと。鍵を投げることは、高いカウンターの中で、従業員が椅子に座って客に対応する構造になっていれば、当然のことかも知れないが、こうした態度は役所の窓口でもいかがなものか。これは数年前の話だそうだが、今度の訪露で、そこから大きく進歩したとも思われなかった。

観光立国に不可欠な「サービス<sup>27</sup>」が、概念としても実践としても、圧倒的不足している。

「ロシアは、『サービス』云うことがわかってない」

---

<sup>25</sup> 【貢馬と献金と交易】奥州藤原氏は、陸奥の内政の不干渉を得るため摂関家に接近し、馬や金、その他特産物などを献上した。このため陸奥国司は形だけのものとなり、実際に行行政をした陸奥国司はほとんどいなかった。(二代基衡の時争い有り)陸奥の駿馬は評判が良く、陸奥の上馬は稻六〇〇束に相当した。畿内の馬のおおよそ二倍の価値を持っていた。後の源平の争いの際用いられた名馬の数々は、ほとんど陸奥産のものであった。砂金の流通は「金売り吉次」なる者がおり、陸奥の砂金を都の公家に運ぶ役割を持っていたらしい。「金売り吉次」は単独の個人を指す者というより、彼を頂点とした金属民集団を指すとみている人もいる。それは、奥州各地に点在する「炭焼き籐太」伝説と「金売り吉次」伝説から推察できる。炭は金属を溶かすときに用いられる重要な燃料であるから、この二つの結びつきは強いと考えられる。

[http://www2.newweb.ne.jp/wc/Otomisan/japanese/histry\\_j/histry\\_hiraizumi.html#kin](http://www2.newweb.ne.jp/wc/Otomisan/japanese/histry_j/histry_hiraizumi.html#kin)より。

<sup>26</sup> ぎけいき〔義経記〕室町前期の軍記物語。8巻。作者不明。源義経(よしつね)の生涯を巧みに脚色し、逆境時代の主人公を好意的に描く。義経伝説の源泉として影響大。【新世紀ビジュアル】

<sup>27</sup> サービス【service】[名](スル)1人のために力を尽くすこと。奉仕。「休日は家族に―する」2 商売で、客をもてなすこと。また、顧客のためになされる種々の奉仕。「―のよい店」「アフター―」3 商売で、値引きしたり、おまけをつけたりすること。「買ってくだされば―しますよ」4 運輸・通信・商業など、物質的財貨を生産する過程以外で機能する労働。用役。役務。5 サーブ [大辞泉 提供: JapanKnowledge]



「日本人もおんなじ違いますか、『サービス』の分からん人多いですよ」  
「サービス云うたら、『タダにしてくれ』云う日本人が多い云うことやろ」  
「へえ」  
「そやなしに、そもそも、ロシアには、客を気持ち良くもてなすことが仕事や、と云うサービス業の考え方がない」  
「そら、困りましたね」  
「今でも官僚主義が蔓延してる」  
「あらあら」  
「自分から、変わる気にならんと、なかなか・・・」

人間のサービス教育が、まず第一。自分からその気になって変わる事。チップ制度を導入するのも、けだし、妙案かもしれない。それに、インフラとして、今すぐに必要なのは、レストランのメニューの英語版と、街角にきれいなトイレの設置。単純なことだが、今はどちらも極めて不十分。

「日本から一番近いヨーロッパ、どすやろ」  
「そや。だから、惜しい」  
「メニューとトイレ、しっかりしてくれはったら、日本から何ぼでも行くひとおりまっしゃろ」  
「そうや」  
「うちかて、もともと、ロシアへ行ってみたかったのに」  
「そのうちに、あっと云う間かもしれんけど、極東の大観光地になる可能性は十分ある」  
「ロシアはん、おきばり<sup>28</sup>やす」(Saturday, September 11, 2004)

「貢献」って？ ; 会員総会を終えて思うこと

e-dream-s 副代表理事 中川 房代

日本全国のNPO法人の数が、2万に迫る勢いである。

内閣府<sup>29</sup>によると、NPO法が施行された1998年12月1日から2004年7月31日までの各都道府県及び内閣府のNPO法人申請受理数は、19,501団体、認証数17,853、不認証数90、解散数225、認証取消6(以上全て累計)。数字を見ると、NPOも市民権を得た、と言っても過言ではない状況になってきている。

---

<sup>28</sup> きばる【気張る】[動ラ五(四)]2 気力を奮い起こす。いきごむ。「-って仕事に取り組む」

<sup>29</sup> 内閣府/国民生活局「NPOホームページ」 <http://www.npo-homepage.go.jp/data/pref.html>

その分、怪しげな団体やいい加減な団体も出てきている。法律に触れる行為や事件を起こす団体、認証後の登記手続を行わない団体、事業報告書を監督庁（大阪府庁や内閣府など）に提出していない団体への行政指導も実施されるようになってきた。法に触れる行為はもちろんだが、事業報告書は3年続けて提出しないと、NPO 法人の認証が取り消される。

e-dream-s は、8月28日に定時会員総会を開催した。

法で規定されている<sup>30</sup>から、ということも当然あるが、それ以上に、会員が集まり1年間の事業・活動を振り返る機会にするために開催している。今回で5回を数えた。設立から4年半が過ぎたことになる。この1年間（2003年6月から2004年5月）は、ECAP プロジェクトを立ち上げ、実施し、テキスト「A Rainbow over the Strait」を出版したことが一番大きな事業であった。助成金の獲得、新聞などへの掲載もあり、ECAP は@aglance と並ぶ e-dream-s の代表的な事業となった。大きな成果を手にしてきていると思う。一方、赤字財政が続いていることや会員数が伸びていないことなど課題も山積しており、決して手放しで喜べるとは言えないが、それでもこの4年半で、頑張ってきた軌跡は残してきたと思っている。

私にとっても、総会は1年間の活動を振り返ることのできる機会、理事や各担当者からの報告を議案書にまとめながら、こんなことがあった、あの時はこんな風に考えていた、1年間は早いなあと思うのがこの時期である。この2年程、様々な機会に「貢献」という言葉をよく聞く。また、自分自身が使うこともある。「貢献」って何だろう？何をすれば、社会に、また e-dream-s に「貢献」できるのか？

e-dream-s は、活動を通じて日本や世界の社会や教育に貢献することを目的（ミッション）にしている。私はそう願って、設立者の一人となった。e-dream-s は、国際社会に貢献できていると言えるだろうか？ツアーやECAPなどのプロジェクトを通じ、韓国や他の国や地域の教師や人たちとネットワークを作ってきていることは大きな財産である。社会的に評価されることも貢献しているかどうかの一つの基準と言えると思う。e-dream-s が世界・国内でのネットワークを強くし、また広げ、事業・活動を継続していくことが貢献するということに繋がっていくと思う。

では、自分自身はどうか？私は e-dream-s に貢献できているのだろうか？

実感としては、私は、自分が「e-dream-s に貢献している」と感じることは多くない。こんなことを書くとお叱りを受けるかもしれないが、「実感としては」である。元々、私は自己肯定観が低いとか根暗だとか、そういうものも影響しているかもしれないが。勿論、私は、結構 e-dream-s の仕事はしているつもり、それなりに時間も労力も使っていると思う。でも、それは自分の仕事だから、すべきこと・した方がいいと思うから、であって、貢献そのものを目的にしている訳ではないからかもしれない。「自分のしていること = 貢献」とは言えなくても「貢献」に繋がっていけばいいなと思っている。

---

<sup>30</sup> NPO 法人は、少なくとも毎年1回、会員総会を開催しなければならない。（特定非営利活動促進法第30条において準用する民法第60条）

人それぞれ得意分野があり、ツアーの企画が得意な人やコンタクトを見つけてくるのがうまい人もいる。書類作成や会計処理が得意な人もいる。立場や役割もある。私は、e-dream-s や事業・活動がスムーズに進むために、どうしたらいいか、自分は何をすればいいのか、それを考えて実行することが貢献の1つに繋がっていくと思う。「貢献したい」という気持ちは人一倍持っているつもりであるし、何をしたら社会や e-dream-s のためになるのか？まだまだ考えが浅く、足りない。もっとしっかり考えていかないといけないなあと思う。

今年の夏は目まぐるしく過ぎた。

8月3日から10日はロシア、16日から22日が「ECAP 2004」で韓国、そして総会が28日。残暑で日中はまだ暑い日もあるが、朝晩はめっきり涼しくなった。今年の秋は、どんな秋にしようかなあ…。とりあえず、ワイン・プロジェクトの申し込みをして、「秋の夜長をワインで！」はいかが？

ECAPのテキスト編集に多大な貢献をしてくださった Lance さん。今年の ECAP2004 Korea に参加した感想を寄せてくださいました。

## ARE YOU AN E-DREAM-ER??!!!

Lance Burrows

Through my participation in this summer's ECAP 2004 Korea I was compelled to coin a new term, **E-DREAM-ERS**. In my mind, an E-DREAM-ER is a person who recognizes the power of English as a source of communication and possibly(hopefully) a means to peace for not only countries in Asia, but countries around the world. These so-called **E-DREAM-ERS** embody an energy and vigor that could only stem from dreams. These dreams come from the hope of a better tomorrow for Japan and countries abroad.

This **E-DREAM-ER** energy was clearly evident at ECAP 2004 Korea. We were literally busy from morning to night conducting research groups, doing interviews, taking surveys, writing reports, and all kinds of other fun things. But no one showed his tiredness.

As I mentioned in the last ECAP General meeting, as an outside American, I noticed some very interesting things about the relationship between Korea and Japan. As **E-DREAM-ERS**, we are doing our best to build a "bridge"(Rainbow) Over the Strait. In my eyes, this bridge is still under construction. Indeed, we still have a long way to go, but with our **E-DREAM-ER** energy, anything is possible.

So, I offer myself as a resource to you. I am not sure how I may help in the future, but if there is anything that I can do to support the goals of your group, I would be more than happy to oblige. Keep up your good work and never stop believing in a better tomorrow for the world. **E-DREAM-ERS UNITE!!!!!!**

元アクロス・北九州支部のメンバーとして活躍されていた岩本さん。アジアツアー・モンゴルでも一緒にしましたね。今年夏の、ロシアツアーに参加された感想を寄せていただきました。

## 「戦車と大砲とウオッカ」 初めてのロシア

北九州 岩本康子

この夏、飛び入りでアクロス・アジアツアーの「DISCOVER 極東ロシア」に参加させてもらった。7泊8日の旅で、訪問地はサハリンの州都ユジノ・サハリンスクとウラジオストクであるが、報告集ではサハリンについて書いたので、ここでは全く主観的なウラジオストク—私のウラジオストク—について書きたい。

この都市に着いての第一印象はよくなかった。ともかく、空港から乗り合いタクシーのような車(これをロシアではバスと呼んでいるが)に、我々一行の8人と案内役の青年と荷物も一緒に詰め込まれ一時間半以上も走り続け、曇った夕方にホテルに着いたせいもあるだろう。途中の路傍の風景はどこかモンゴルで見た風景に似ており、懐かしくもあったが、ホテルのボーイ(アルバイトの若者)の態度も、互いに言葉が通じないせいか、あまり上等とは言い難かった。着いて間もなく、夕食をとるために、ホテル周辺のレストランを2,3軒回った時の印象もあまりいいものとは言えなかった。特に浜辺にあった中華料理店の印象は最悪だった。受付に何人もいたが、どの人にも笑顔は見られず、お客に対するサービス精神が全然感じられなかった。一度悪いと思いつくと心はそちらに傾いてしまうものだが、その時歩いて目にした浜辺まで雑然として美しいとは感じられなかった。

そして、最後に辿り着いたのがライブ演奏付きの少し洒落たレストランだったが、私は大変疲れていたせいもあって、入ってすぐに、演奏されていたバイオリンの音があまりに大き過ぎて、キーンと頭にきてしまい、しばらくその場を離れざるを得なかった。

ただ、しばらくして、出される料理を食べているうちに、だんだん気持ちも落ち着いて来て、楽しいものになってきた。それは、出される料理(ロシア料理)が意外に?美味しく、井川先生の明るい声と共にいつものアクロスのメンバーの会話が戻ってきたからだ。案内役のアレクセイ青年もだんだん打ち解けて来て、近くの席の辻先生と話しをしていた。この青年の日本語はサハリンのアンドレイよりはうまくないが、十分に用は足せるし、時間が経つにつれ(3日間の案内)彼の持つ人柄が自然に出てきて、ロシア的なものを知る上で大いに役に立ったと思う。

以上が、ウラジオストクの初日の印象であるが、翌日からサハリンに飛び、そして、再び戻って来てから観たものと感じたことを二つだけ述べたい。

観たものとはともかく、要塞跡と戦車と大砲だけと言っていい。撮ってきた写真もそれが圧倒的なことに改めて驚いた。要塞跡が観光地(ルースキー島)になり、戦車と大砲だけで博物館になるというのも大変ロシア的ではないかと思った。また、それを案内してくれた元軍人と思われるガイドの熱心な説明にも驚いた。かくも熱心に、できるだけ大きな破壊力を持つ爆弾を作ることを考え、それを飛ばす大量の大砲、戦車を作る人間(ロシア人とは限らない)とは一体何者なのだろう?最後の日に訪れた丘の上にある海軍博物館の数々の戦車やさまざまな大砲を見ていると何か、SFかアニメの世界の

物のように思えた。 その中を歩いて戦車に乗ってみたり、その姿を写真に撮ったりしている我々…。

食べ物から感じるロシアは一口で言って淡泊であった。ロシア流中華料理にそれがよく現れていたように思う。 味付けが日本で食べる中華料理ほどこってりしていないのに驚いた。ロシア料理そのものも、ボルシチ、ピロシキ、ペリメニ（水餃子風）とどれもしつこくなく、素朴なものであった。 素材をそのまま生かし、あまり凝った料理法ではないようだ。 一度熊の肉を食べさせるレストランに入ったが、この肉の味もあまり脂濃くなくあっさりしていた。（スープの中に細かい角切りの熊肉が入っていた）。 そう言えば、ロシアの代表的なアルコール、ウオッカが無色、無味、無臭であるが、これと食べ物の嗜好と関係があるのだろうか？ ただ、量だけは大変多かった。 冬が寒いからうんと食べるのだと案内役のアレクセイは言っていたが…。戦車と大砲、それにロシア料理とウオッカが私のロシア入門であった。 ウオッカによるコサック・トーストが忘れられない。

2004年 9月11日

今年夏、e-dream-sの新しい会員となってくださった、安田さんより原稿をいただきました。  
今後とも、よろしくお願ひします。

## 15年ぶりの韓国

e-dream-s 会員 安田 悠

私が初めて海外に出たのは1961年である。未だ成田空港は無く、羽田からプロペラ機に乗った。隣国だというのに、初めて韓国に行ったのはそれから14年も経ってからのことである。険しい商談で韓国の人の激しい気性に驚かされたがその晩の宴では同じ相手から打って変わっての歓待を受け、もっと驚いた。1976年頃、アメリカでソニーの電化製品を買ったら韓国製とあった。ロスにはコリアンタウンが出来つつあった。1981年、私は中近東に駐在して居たが、この頃韓国は土木、建設の分野で日本企業を凌駕しつつあった。韓国人駐在員は日本人よりも恵まれない条件で中近東の厳しい生活に耐えていた。現代重工の乗用車が品質問題で苦戦しつつもアメリカ市場にデビューし80年代、「漢江の奇跡」と言われ韓国経済が大躍進を遂げた。日本に帰った私もその波に乗って1984年からの3年間韓国企業との取引で忙しく在日韓国人のビジネスマン、本国の現代、大宇の幹部達と知り合うことが出来たが彼らの猛烈な働きぶりに圧倒されたものである。



1989年、母を連れて初めて観光だけの韓国旅行をした。戦前の歪んだ教育を受けた母にとって韓国で韓国を学ぶことが非常に興味が有り、勉強になったらしい。慶州を初めて訪ね、歴史に強い母と一緒に日本史を論じ合ったひと時は今は亡き母との忘れられない思い出である。2001年1月、ジャパントイズの一つの記事が私を凍らせた。韓国人留学生が酔っ払って新大久保のホームから転落した日本人を助けようとして線路に飛び降り、一緒に電車に轢かれた！韓国大使館に電話したが土曜日で対応が良くなかった。学校に連絡が取れた。今晚通夜、未だ間に合う。雪が降ったあとで雪かきをしていた家内には申し訳無かったが、言い訳をしてそそくさに駅へ走った。今の日本人の何人が海外でこういう「義拳」を行えるだろう？少なくとも李秀賢君を育てたご両親にお礼と慰めを言おう。

今年、三周忌が新宿で盛大に行われた。ご両親が気丈にお礼の挨拶をされる。釜山のお墓に詣でたい

と思うようになった。そして前回連れて行けなかった家内を早く韓国に案内せねばならない。ソウル、慶州、釜山と回る手ごろなツアーを申し込んだ。7月31日のジャパンタイムズで e-dream-s について読んだ。入会させて頂く。

大体東アジアはどこでもそうなのだが10年もすれば景色は大変わりしてしまう。15年ぶりの韓国は街並みも人の表情もすっかり変っていた。街に漢字は殆んど見かけなくなった。インフラの整備も行き届き、林立する高層アパートには相変わらず洗濯物とか見苦しい商業広告が見当たらなかった。人々の表情が和んだように思う。こちらが歳をとったことも有るが、昔感じた緊張の空気は消えていた。それだけ国民が自信を持ったのだろう。駐留米軍が三分の一減り、ソウルからは姿を消す。あれだけ米国と緊密だったのに、将来を見据えた自主外交を展開出来るのだ。アリランチャンネルという局がソウルで英語専門の放送をやっていた。韓国人の方が英語が上手だという理由の一つかも知れない。然し、今中国に一番多く留学生を送っているのは韓国と読んだことがある。英語という国際語の活用と共に、日中韓で「統一漢字」を唱える動きがもっと盛んにならないものか？ 「東アジア共同体のための10のポイント」(東亜、2004年8月、9月号)で 昭奎も言っている。韓国の若い人は漢字を読めなくなっているような気がする。

さて、ツアーの方は日本人観光客用の定番で埋められており、安重根の記念館などは除外されていた。普通のお付き合いが出来るようになった今、韓国の「義士」の記念館も定番に入れて貰いたいものだ。日本人用の定番というとガイドさんは土産物店に時間をかけるから、釜山でホテルの戻るのが遅くなり、李秀賢さんのお墓に行くのが無理になった。せめて記念碑には行こうとホテルのコンシェルジェに行き先を書いてもらい、その紙片をタクシーの運転手に渡す。子供大公園には着いたがもう夜、一体、どこに記念碑が有るのか見当がつかない。幸い、涼を求めて市民が沢山集っている、こちらはハンゲルで道を聞くような力はない。出来るだけ若そうな人を捕まえて英語が分かるかと聞くと有りがたい事に少しとの返事。記念碑の写真を見せて方角を聞き、迷いながらもなんとか辿り着いた。横で中年の夫婦が薄明かりの下布を敷いて小さな子供と食事している。記念碑に彫られた李秀賢君の似顔絵に深く頭を下げた後、この記念碑で写真を撮らせてもらうが、とジェスチュアで言うと、夜の来訪者老夫婦の国籍と心情が直ぐに分かったようで旦那さんが何か一生懸命に話して呉れた。嬉しかった。翌朝、ガイドさんが「昨夜は無事に行けましたか？」と問い掛けてきた。心に残っていたのだろう、いつか、このガイドさんも自分で記念碑を訪ね、或いはお客を連れて行って呉れるかも知れない。

< 報告 > 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ 第5回定時会員総会  
中川房代

8月28日に第5回定時会員総会を開催し、全ての議案が承認されました。

総会では、昨年1年間、@aglance や「A Rainbow over the Strait」のテキスト出版を中心に事業面で大きな成果をあげてきていること、またマスコミへの登場など社会的認知度や評価も高まってきていることが確認されました。総会には、設立当初から応援して下さっている甲南大学の Benjamin Mitsuda さん、テキストの編集・ECAP 2004 にも参加された Lance Burrows さん、民団新聞の鄭容順記者が駆けつけて下さいました。

## 第 5 回定時会員総会の議決・決定事項

### 第 1 号議案 2003 年度（2003 年 6 月 1 日から 2004 年 5 月 31 日まで）事業報告承認の件

#### < 事業の成果 >

2003 年度は各事業とも順調に発展した一年だと言える。教育用写真アーカイブ@aglance はその内容と量高めるとともに、新聞・雑誌などの多くのマスメディアに紹介されその認知度を上げた。また、毎年企画している教員向け海外研修はロシア、ベトナム、韓国とその範囲を広げ、その他の広報、HP などの事業もふくめすべて順調である。中でも特筆すべきは日本万国博覧会記念協会の助成を得ての日韓相互理解教材「A Rainbow Over The Strait -海峽に架ける虹」の出版である。今後のイー・ドリームズの活動の一つの方向性を示すものだといえるだろう。

### 第 2 号議案 2003 年度収支決算承認の件、並びに監査報告

### 第 3 号議案 新監事選任の件

- ・丸野有利子・監事の辞任に伴い、新監事に矢神尚久氏を選任
- ・任期は、2004 年 9 月 1 日から 2005 年 8 月 31 日まで

### 第 4 号議案：e-dream-s 年会費の変更の件、及び 2004 年度財政方針・収支予算報告の件

#### < 目標 > “ 2004 年度収支決算を黒字に！ ”

1. 更なる支出の削減：特に会議などに伴う交通費補助金等の支出を更に抑える。
2. 収入の増加：
  - (1) 会費の値上げ：会員数 60 名として、240,000 円の収入増（@¥4,000 × 60）
  - (2) 協賛金の募集：目標・・・(a) ~ (c) で 1,000,000 円  
(細案・要項は、後日担当者より連絡)
    - (a) 協賛金（寄付）；1 口 2,000 円の募集
    - (b) ワイン・焼酎プロジェクトの実施（2004 年秋）
    - (c) 「A Rainbow over the Strait」への賛同・協賛金の募集
    - (d) e-dream-s グッズへの協賛金の募集
3. 運営資金の確保：小口債券の募集：目標・・・2,000,000 円  
(要項は、後日担当者より連絡)

< 会費の金額の変更 > 年会費を、以下のように変更する。(2004 年度より)

	現 在 (円)	提 案 (円)
正会員・個人/団体	6,000	10,000
賛助会員・個人/団体	3,000	5,000

\* 入会金は据え置き（個人会員 5,000 円、団体会員 10,000 円）

## 報告事項1 2004年度事業方針について

### <2004年度のテーマ> 「より強く持続的な共振」

指一本の小さな力であっても、巨大な釣り鐘を大きく揺り動かすことができるといわれる。この、微力ではあるけれども私たちの力で社会に影響を与えようとする意志を、2003年度は「共振=RESONANCE」という言葉で表した。

その結果、各事業とも一定の成果を収め共振が始まりつつあるが、釣り鐘の揺れが大きくなるまでは長い時間がかかるように、私たちの影響力を高めるには、今後も共振してくれた個人・団体とのコミュニケーションの質と量を高めながら、継続的に活動を続けて行くことが必要である。2004年度の事業方針はその決意を込めて「より強く持続的な共振」をキーワードとしたい。

### <事業計画>

#### (1) 教育ネットワーク事業；写真アーカイブ @aglance 事業

- ・画像数10,000枚（おおよそ2年後）を目標に@aglance事業を継続する。
- ・1年ごと（2005年5月、2006年5月、2006年8月）に見直しを行う。
- ・オンデマンド日本写真の充実を図る。重点ポイントは、
  - 1.日本語教師及び関係者との連携を進める。
  - 2.ボランティアカメラマンの増加を進める。

#### (2) 教材開発・制作の企画、請負及び販売事業・講演、研修などの企画、請負及び主催事業

- ・「ECAP 2004 Korea(2)」の実施（2004年8月）と教材作成プロジェクトの継続
- ・「ACROSS アジアツアー2004；極東ロシア」の企画と実施（2004年8月）
- ・「ECAP 2005」の企画と実施（2005年8月）に向けた準備
- ・「A Rainbow over the Strait」テキストへの賛同・協賛金の募集

#### (3) その他

- ・ホームページの充実
- ・広報活動；プレスリリース
- ・助成金の応募・申請
- ・「e-dream-s 通信」の発行（月1回）
- ・役員選出内規作成などの組織整備

## 監事辞任の挨拶

e-dream-s元監事 丸野 有利子

先日、イー・ドリームズの第5回定時総会が行われました。ということはまる5年監事を務めたこととなります。同じ人が監事を長く続けない方が良いということと、年2~3回のことですが、泊まりがけで（宿泊費は自費）監査作業に行くことが結構負担になってきたため、2年間の任期の途中ですが、辞任を願い出ました。

会計担当理事の辻岡さんがきちんと記録・保管して下さっていた帳簿と領収書類を照合するぐらいで、



たいした仕事はしなかったのですが、支出状況からイー・ドリームズの活動が浮かび上がって来て、その推移に注目していました。

債権に頼った自転車操業を続けざるを得ないことへの疑問など、色々個人的に思うことはあったのですが、監事の役割外ということで、大人しく・・・していたわけではなく、理事会では議決権もないのに好き放題に発言させていただき、大変失礼しました！

これからは一会員として、イー・ドリームズの健全な発展のため協力して行きたいと思っています。

### 総会＆パーティへ参加しての感想

e-dream-s会員 阿部 ちひろ

私はちょうど1年前体験訓練を経験し、とりあえず何か始めようと思って「アクロス」に参加しました。毎月の通信以外に総会でe-dream-sの活動をいろいろ見て、ここがつくづく参加活動型の団体ということを実感している次第です。「できない、やれない、無理」ということを多少自分に強制してみると、「なるほど」と勉強になることがあって、考えさせられます。

またパーティは日頃一緒に練習をしている人たちや、教えていただいたことのある先生方のそばでイタリア料理をのんびり食べていました。その会話の中でもいろいろアドバイスしていただいたりして、こういうリラックスできる場面があるというのは学校でもそうですが、大事だと思いました。



総会後のパーティでの乾杯の様子

## お知らせ

### 1. ワインプロジェクト2004

今年も、ワインのプレゼント付きの賛助金を募ります。賛助金の額は一口、15,000円、4,000円、3,000円です。1口15,000円の分には5本のワイン、4,000円の分には赤のスパークリングワイン、3,000円の分には赤の辛口、フルーティな赤、白の辛口、フルーティな白のいずれか1本をプレゼントします。詳しくは、9月8日に送付されたメール「賛助金のお願い」をご覧ください。文書がない方は、塚本美紀 ([tsukamoto@e-dream-s.org](mailto:tsukamoto@e-dream-s.org))までお知らせください。文書をお送りします。皆様からのお申し込みをお待ちしています！

<塚本美紀>

#### 編集後記

「海峡に架ける虹」の出版に伴い、今年はいろんなメディアにとりあげていただいている。本号で「15年ぶりの韓国」を寄稿して下さった安田悠さんは、ジャパントイムズの記事がきっかけで、e-dream-sに入会して下さった。わざわざジャパントイムズの編集部へe-dream-sの連絡先を尋ねて、我々に連絡して下さった。じっとしては、チャンスは生まれない。安田さんのフットワークの良さを見習いたいと思う。(塚本美紀)